

SEA TRIAL

BEYOND THE HORIZON

AXOPAR 37 XC CROSS CABIN

2014年突如として登場したマリブランド「AXOPAR(アクソパー)」。

28モデルの誕生からそのスタイリングと動力性能に世界は衝撃を受けた。

既成概念を打ち払った斬新なスタイルを提案、フィンランド生まれポーランド製のインターナショナルブランド。

これまでに2,200隻が世界70カ国で販売され、37レンジはすでに1,000隻がデリバリーを済ませている。

そのフラッグシップ「37 XC Cross Cabin(37XCクロスキャビン)」は海のグランドツーリングカーを標榜し、

その誇りは「Beyond The Horizon」のメッセージに込められている。

text: Kenji Yamazaki photo: Makoto Yamada

special thanks: OKAZAKI YACHTS <http://okazaki.yachts.co.jp>



バウゾーントップから両舷サイドにグラスルーフを持つコンフォートキャビン 抜群の直進性とラリーライクな回頭性と高速性が、この上ない楽しみを感じさせてくれる

伸びやかな直線基調のシャープ且つスポーティなフォルム。細く鋭利な刀剣を思わせるバーチカルバウ。低いガンネル、ロープロファイルでアグレッシブなスタイリングは、他に類似性を持たない新たなトレンドを生み出した。ガンネルの下にはぐるりとハルを取り囲むラブレールがハルサイドをガードする。

メインキャビンの存在感。スカンジナビアンワークボートの象徴的なリバースワープのフロントスクリーン、360度視界確保のラップアラウンドしたルーミーなメインキャビンからは全天候対応の逞しさが垣間見える。リラクゼーションゾーンのバウデッキ、ガルウイング仕様も選べるバウキャビン、アウトドアギアの収納にも有意義だ。ウォークアラウンドのサイドデッキ、使い勝手の良さそうな広々としたアフトコクピット、フィッシング対応、ウエットバーを持つパーティ対応、バリエーション豊かなアレンジが可能だ。見ているだけでもマリタイムの遊びの幅が無限の広がりを見せ、わくわく感に溢れていることがわかる。船尾には2基のアウトボードエンジンが誇らしげだ。MERCURY Verado 300-V8×2基。50ノット

トに達する最高速、30ノット巡航で好燃費を約束する組み合わせだ。

キャビンはこの上なく採光にあふれ明るい。両サイドのスライドドアからエントリー。このサイドスライドドアの存在は大きい。ステアリングを離しサイドデッキに出て離着岸の作業に移れる機敏さ、スカンジナビアンスタイルだ。2脚のヘルムシート、整然としたコンソール。ISOTTAの6スポークステアリング、正面にSIMRADのGPSマルチディスプレイ、ステアリング右手にスロットルコントロールレバー、左にバウスラスタレバー等が居並ぶ。オプションでジョイスティック パイロティングシステムが用意されている。

*

防水ファブリックのパイロットシートに座る。高めのセットだがステアリングを握りながら360度視界は極めて良好だ。パノラマビューが約束されている。スタンディングでもそれは変わらない。リバースワープのフロントウィンドウ、スプレーや降雨時の防滴効果を期待できる。更に庇が前方へ伸びたルーフからは真夏の陽光が遮断されることが体感できる。



ヘルム後部にはL字型に同じ素材のファブリックシートがセットされ、ヘルムシート背後のウォールナットテーブルと合わせればダイネットエリアが展開する。頭上のルーフ、一面のサンルーフは手動だが軽やかに開閉する。オプションで電動化も可能だ。どの席に座ろうとも海との見晴らしは良く、荒天時にも安心して過ごせるキャビンだ。もちろんサンルーフを開け、両サイドドアを開放すれば真夏には快適なクルージングが約束される。ちなみにエアコンもインバーターエアコンがこのサロンとバウキャビンで作動する。命名の意味が理解できてきた。オープンとクローズドのマルチユースが可能なおからCross Cabin(クロスキャビン)と名付けられたのだ。

バウキャビンへ降りてみる。キャビンすぐ手前右手にシンクとヘッドの個室がある。その先のバウキャビンはグラスルーフを持ち採光は満点、バウゾーンにバース仕様の設定が施されている。両舷サイドのグラスルーフは左右で上部に跳ね上がるガルウイング



周辺視界は極めて良い。スタンディングでも着座でもそれは変わらない。サイドドアを開けると離着岸時の作業効率向上は素晴らしい。逆傾斜のフロントウィンドウはスプレーや降雨時の防滴効果を期待できる。更に庇が前方へ伸びたルーフから真夏の陽光が遮断されることが体感できる。



両舷のサイドスライドドアは意義深い。ステアリングを離してサイドデッキに出て離着岸の作業に移れる機敏さ、スキャンジナビアンスタイルだ。2脚のヘルムシート、整然としたコンソール。ISOTIAの6スポークステアリング、正面にSIMRADのGPSマルチディスプレイ、ステアリング右手にスロットルコントロールレバー、左にパウラスターレバーが屈並ぶ。そしてこのパノラマ視界！

式開閉装置がオプションで用意される。様々なアウトドアスポーツギア等放り込むにうってつけのストレージかガレージになる。AXOPERのキャッチフレーズには「The Adventure You've been Waiting for」とある。ルーフキャリアにシーカヤックやオフロードバイクを搭載して水際からアプローチできるアウトドアスポーツへの誘いのメッセージが力強い。「Live Your Adventure Together with Us」。

*

全長11.5m、全幅3.35m、このAXOPERのフラッグシップ37レンジにはオープン艇の「Spyder(スパイダー)」、Tトップを持つ「Sun Top(サントップ)」、そしてクローズドキャビンを持つこの「XC Cross Cabin」の3艇種が用意される。2019年11月にプレス発表、2020年1月のデュッセルドルフ

パウデッキのリラクゼーションゾーン、サンパッドやテーブル、サンシート。アフデッキもゆったり対面シートと多くのストレージが遊びを提案する。



フポートショーでワールドプレミアされた37XC Cross Cabin。早速日本国内導入が果たされた。37レンジの登場は2017年1月のデュッセルドルフポートショー。その9月には日本国内にて37Cabinをテスト、2020年3月には37SC「BRABUS Line Trim Package」のシートライアル記を掲載した。全てデビューと同時に国内導入が果たされているのである。

今回のこの37 XC Cross Cabin、オールウェザーボーテイングを標榜したグランドツーリングボートと位置付ける。寒い北海やバルト海、暑いカリブの海、太陽の煌めく地中海、ニューヨークマンハッタン、ビジネスタウンを抜けだすエクスプレスボートと。ファウンダーの一人、クリエイティブ&イノベティブディレクター Jan-Erik Viitalaは「ボーテイングは自由と発見の喜びが全てです。私たちのアウトドアへの情熱は今まで存在を知らなかつ

た場所を発見したり、純粋な自然を体験したり、新しい境地を開拓することを可能にします。その先へ、冒険を探求しましょう」とメッセージする。

*

北欧バルト海を挟むポーランド製造フィンランドブランドの「AXOPER(アクソパー)」。2014年創立から急激な成長を見せるそのモデルレンジは最新の22に始まり、28、最大艇37の3サイズをラインアップする。

創設者はSakari MattilaとJan-Erik Viitalaの2人。Sakari Mattilaは、フィンランドのPARAGON YACHTSやXO BOATS、さらにAQUADORの創設者の一人でもあった。「AXOPAR」の名称はAQUADOR、XO BOATS、PARAGON YACHTSそれぞれの頭文字「A」、「X O」、「PAR」を合わせたものだ。Jan-Erik ViitalaはSTOREBRO、NIMBUS、PARAGONブランドを有したスウェーデンのNIMBUS BOATS ABのエグゼクティブマネージメントメンバーだった人物。2014年創設と共にSakari MattilaがCEOを務め、そうそうたる経験を有する2人を中心に誕生したのが「AXOPAR」だ。

フィンランド・ヘルシンキにヘッドクォーターを置き、ポーランドにOEMヤードを置き、建造する国際ブランド AXOPAR。2017年からCEOはハンティングやアウトドアスポーツをこよなく愛するアスリートの Mikael Heikfolk が務める。个性的かつ斬新なそのデザインはハルデザインを含めて Navia Design の Jarkko Jämsén。2段のチェーン+ストレーキ3本、2段





パウキャビンはグラスルーフを持ち採光は満点、パウゾーンにバース仕様の設定が施されている。手前は様々なアウトドアスポーツギア等を放り込むにうってつけのストレージかガレージになる。もちろん対面シートを持つサロンとしてオーバーナイトにも対応している。

のステップ、トランサムデッドライズ 20°のディーブVとレーシングボート並みの極めてマニャックな高剛性ハルを生みだした。以前 28 TTop で体験した他を抜きんでたパフォーマンスの体感は忘れることなどできない。また。

*

この日横浜の海は穏やかだった。エンジンを始動する。MERCURY Verado 300-V8×2 基が静かにアイドリングを続けている。パウスラスターを使って離岸する。晴れ、気温 14°C、無風。波高 0.5m。横浜ベイサイドマリナーを出ると風状態の東京湾が広がっている。ウィークデーなのになぜかセールボートが多い。撮影の為セールボートの動きの邪魔にならない

い様に沖に出る。太陽の位置、背景、本船の動き、遊漁船の動き、気にならない安全海域を探す。

そのレスポンスの良い機敏な動きは、マリナーでパウスラスターを使った離岸行為だけでも気付いている。600rpm-3.2ノット-燃料消費 4.3L/h (片舷)、スロットルへの反応はリニアそのもの、エンジン回転とトルク&パワーの伝達にタイムラグがない。1,000rpm-5.4ノット-4.8L/h、1,500rpm-7.5ノット-8.3L/h、2,000rpm-9.4ノット-14.2L/h、2,500rpm-12.7ノット-18.2L/h。プレーニングし始める。更にスロットルを入れていく。3,000rpm-16.0ノット-22.0L/h、3,500rpm-23.7ノット-29.0L/h、4,000rpm-



キャビンすぐ手前右手にシンクとヘッドの個室がある。このドアはトイレを個室にする時とパウサロンのエントリドアを兼用。セールボートにも多い合理的な思考だ。



31.8ノット-44.0L/h。巡航の30ノット、なかなかの好燃費を示している。低速域でも高速域でも少しのずれもなく、決めたヘディングのまま突き進んでいくその直進性の良さに驚愕する。速度が上がれば上がるほど安定感は増していくがキャビン内は静寂そのものだ。40フィートクラス艇の安定感が心地よい。

凧といっても東京湾特有のチョッピーな波がある。引き波に突っ込んででもまるで何もなかったかのようにさらりといなししていく。高速スラロームを始める。油圧ステアリングは心持ちイナーシャを感じるものの重さを感じないまま切りこんでいける。インサイドバンクを伴いながら回頭を始める。S字走行、切り返しもスムーズそのもの。軽快感を伴いながらひらひらりと走行するのだ。30ノットオーバーで旋回を試みる、インサイドバンクはきつくなるが横Gを感じないまま自然に抜けていく。まるでダンシングマシン、まさにオンザレール。4,500rpm-36.0ノット-52.6L/h。トリムとフラップはフラットなままだ。5,000rpm-40.5ノット-74.0L/h。5,500rpm-45.0ノット-94.4L/h。MAX5,600rpm-46.0ノット！まるで高速レーシングボートの印象だ。海のラリーマシンとも呼びたくなる。



このブランドの経営リーダーたちの共通した趣味、アウトドアアドベ



ンチャーライフが一貫した思考としてこのAXOPARに「共にその先に行こう」の姿勢を通底させている。海の遊びの幅が間違いなく広がった。「Beyond The Horizon」それぞれの遊びのその先にある自由ゾーンの発見を楽しむギアとして、このAXOPER 37 XC Cross Cabinの果たす役割は大きい。なによりも乗って走るこの上ない楽しみを感じさせてくれるフネ、そう出会えることではない。海のSUVと言うべきマルチパーパスギアだ。P.B.

AXOPAR 37 XC Cross Cabin

全長 11.50 m
全幅 3.35 m
喫水 0.85 m
重量 3.77 ton
エンジン 2× MERCURY Verado 300-V8
最高出力 2× 300 HP
燃料タンク 730 L
清水タンク 100 L
問い合わせ先 オカザキヨット
TEL: 西宮 0798-32-0202、横浜 045-770-0502
<https://okazaki.yachts.co.jp>



YouTube